

Q 将来的に私たちががんを発症する確率はどれくらいですか？

A 日本人が一生のうちにがんと診断される確率は、男女とも2人に1人です。

※2019年データに基づく



**がんは早期発見・早期治療が大切。
正しく検診を受けましょう。**

年間のがん罹患患者数は約100万人(人口10万人あたり約800人)といわれています。がんは遺伝子の異常が引き金となって発症する病気です。その要因として「遺伝」「生活習慣等の環境要因」「遺伝子の複製エラー」の3つが上げられます。その中で「遺伝子の複製エラー」が6~7割を占めるということが分かってきました。遺伝子の複製エラーは偶然起こるものであり、防ぐことは難しいですが、早期発見・早期治療をすることで治療できます。特に厚生労働省が発表している5大がん(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん)は、早期発見ができれば治療効果を期待できるので、定期的に検診を受けることが推奨されています。子宮頸がん検診は20歳以上の女性、それ以外のがんは40歳以上の方が検診の対象です。早期発見のために正しく検診を受けることが望ましいです。

**治療が難しいがんを研究し、
恩恵を受けられる人を増やしたい。**

がん発症の原因となる遺伝子異常について研究しています。研究の世界では次々と新しい遺伝子異常が発見されていますが、それに対応する薬剤も開発されており、医療の進歩を感じることができます。まだまだ分からないことがたくさんあり、それらを明らかにすることで、大きく社会貢献できることがこの分野の研究の魅力です。私の研究室では、新しい抗がん剤開発につながる可能性のある化合物や遺伝子異常を見出し、臨床応用を目指して研究を進めています。特に、日本で発症率の高い肺がん、大腸がん、乳がん、膵臓がんなどを研究対象とし、さらに5大がんに含まれる胃がん、子宮頸がん等についても研究を広げる準備ができています。発症率の高いがんや治療効果の高いがんに集中して研究を進めることで、研究の恩恵を受けられる人を増やしたいと考えています。

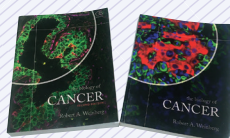


柳澤 聖 先生

Yanagisawa Kiyoshi

以前は、医師として病院で働いていました。さまざまな病気の治療に携わっていく中で、がんの治療が最も難しいと感じたため、新たな診断法や治療法を生み出す可能性のある研究の道に進み、がん治療の改善に貢献したいと考えました。

お気に入りのアイテム



研究のよりどころになっている一冊

遺伝子異常を世界で最初に発見した、がん研究の第一人者・ワインバーグの著書『がんの生物学』。がん研究をしている人で、この本を知らない人はいないのではないのでしょうか。私の研究室では、学生にも読んで発表してもらっています。